

1. イエスがヨハネよりも弟子を多くつくつて、バプテスマを授けていることがパリサイ人の耳にはいった。
それを主が知られたとき、
2. —イエスご自身はバプテスマを授けておられたのではなく、弟子たちであったが、—
3. 主はユダヤを去って、またガリラヤへ行かれた。
4. しかし、サマリヤを通って行かなければならなかった。
5. それで主は、ヤコブがその子ヨセフに与えた地所に近いスカルというサマリヤの町に来られた。
6. そこにはヤコブの井戸があった。
イエスは旅の疲れで、井戸のかたわらに腰をおろしておられた。
時は六時ごろであった。
7. ひとりのサマリヤの女が水をくみに来た。
イエスは「わたしに水を飲ませてください。」と言われた。
8. 弟子たちは食物を買いに、町へ出かけていた。
9. そこで、そのサマリヤの女は言った。
「あなたはユダヤ人なのに、どうしてサマリヤの女の私に、飲み水をお求めになるのですか。」
——ユダヤ人はサマリヤ人とつきあいをしなかったからである。——
10. イエスは答えて言われた。
「もしあなたが神の賜物を知り、また、あなたに水を飲ませてくれと言う者がだれであるかを知っていたなら、あなたのほうでその人に求めたことでしょう。
そしてその人はあなたに生ける水を与えたことでしょう。」
11. 彼女は言った。
「先生。あなたはくむ物を持っておいでにならず、この井戸は深いのです。
その生ける水をどこから手にお入れになるのですか。」
12. あなたは、私たちの先祖ヤコブよりも偉いのでしょうか。
ヤコブは私たちにこの井戸を与え、彼自身も、彼の子たちも家畜も、この井戸から飲んだのです。」
13. イエスは答えて言われた。
「この水を飲む者はだれでも、また渇きます。」
14. しかし、わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して渇くことはありません。
わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。」
15. 女はイエスに言った。
「先生。私が渇くことがなく、もうここまでくみに来なくてもよいように、その水を私に下さい。」
16. イエスは彼女に言われた。
「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい。」
17. 女は答えて言った。
「私には夫はありません。」
イエスは言われた。
「私には夫がないというのは、もつともです。」
18. あなたには夫が五人あったが、今あなたといっしょにいるのは、あなたの夫ではないからです。
あなたが言ったことはほんとうです。」
19. 女は言った。
「先生。あなたは預言者だと思ひます。」

20. 私たちの先祖は、この山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムだと言われます。」
21. イエスは彼女に言われた。
「わたしの言うことを信じなさい。
あなたがたが父を礼拝するのは、この山でもなく、エルサレムでもない、そういう時が来ます。」
22. 救いはユダヤ人から出るので、
わたしたちは知って礼拝していますが、あなたがたは知らないで礼拝しています。
23. しかし、真の礼拝者たちが霊とまことによって父を礼拝する時が来ます。
今がその時です。
父はこのような人々を礼拝者として求めておられるからです。
24. 神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。」
25. 女はイエスに言った。
「私は、キリストと呼ばれるメシヤの来られることを知っています。
その方が来られるときには、いっさいのことを私たちに知らせてくださるでしょう。」
26. イエスは言われた。
「あなたと話しているこのわたしがそれです。」

説教

このみことばは、イエスさまが所謂サマリヤの女との会話に於いて語られたみことばです。イエスさまがサマリヤの町にあるヤコブの井戸の傍らに腰をおろして休んでおられると、ユダヤの時間では正午頃、ひとりのサマリヤに住む女性が水を汲みに井戸にやって来ます。通常水を汲むのは暑い昼間を避けて朝か夜であるため、この女性は人目を避けて目立たぬよう水を汲みにやって来たと思われます。

イエスさまはその女性に水を飲ませてくれと話しかけると、女性は驚きます。

7. ひとりのサマリヤの女が水をくみに来た。
イエスは「わたしに水を飲ませてください。」と言われた。
8. 弟子たちは食物を買いに、町へ出かけていた。
9. そこで、そのサマリヤの女は言った。
「あなたはユダヤ人なのに、どうしてサマリヤの女の私に、飲み水をお求めになるのですか。」
——ユダヤ人はサマリヤ人とつきあいをしなかったからである。——

ユダヤ人は歴史的に他の民族との混血であったサマリヤ人を忌み嫌っていたからです。

イエスさまは、このわたしが誰であるかを知っていたなら、あなたの方からわたしに生ける水を求めることだろうと言うと、女性は「あなたは私たちの先祖ヤコブよりも偉いのでしょうか。」と聞き返します。イエスさまは当然ご自分の方が偉いことを示すために、ご自分にはヤコブの井戸以上の水、すなわちそれを飲めば二度と乾くことのない永遠のいのちへの水を与える準備があるとお答えになります。

「先生。私が渴くことがなく、もうここまでくみに来なくてもよいように、その水を私に下さい。」とすかさずお願いする女性に、「それなら、行ってあなたの夫をここに呼んで来なさい。」とイエスさまが言われると、女性は「私には夫はありません。」と答えます。イエスさまが「確かにその通り。あなたには夫が五人あったが、今あなたと一緒にいるのはあなたの夫ではない。」と女性の悲惨な現実を見事に言い当てるや、女性は、「先生。あなたは預言者だと思います。」と告白し、そこから礼拝についての問答に入っていくのです。

女性は質問します。

19. 女は言った。
「先生。」

あなたは預言者だと思います。

20. 私たちの先祖は、この山(ゲリジム山)で礼拝しましたが、
あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムだと言われます。」

これに対して、イエスさまはこうお答えになるのです。

21. イエスは彼女に言われた。

「わたしの言うことを信じなさい。

あなたがたが父を礼拝するのは、この山でもなく、エルサレムでもない、そういう時が来ます。

22. 救いはユダヤ人から出るのでから、

わたしたちは知って礼拝していますが、あなたがたは知らないで礼拝しています。

23. しかし、真の礼拝者たちが霊とまことによって父を礼拝する時が来ます。

今がその時です。

父はこのような人々を礼拝者として求めておられるからです。

24. 神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。」

サマリヤ人はアレクサンドロス大王の許可を得てゲリジム山で礼拝をささげ、ユダヤ人はエルサレムで神殿礼拝をささげておりました。そして、互いに自分たちこそ正当な礼拝者であることを主張しておりました。しかしイエスさまは、そのどちらもが時代遅れとなり、新しい時代が来ると言われます。それは「真の礼拝者たちが霊とまことによって父を礼拝する時」です。そして「今がその時です。」と、今がまさにその時であると言われるのです。

「真の礼拝者」とは、直訳すれば「真理 avlh,qh の礼拝者」で、「嘘偽りのない本物の礼拝者」のことでしょう。23~24節には avlh,qeia という言葉が三度も出てきます。真理、真理、真理、あるいは本物、本物、本物という具合にイエスさまが強調しておられます。エルサレムでなく、ゲリジム山でもないとするならば、それでは「真の礼拝者」は一体何処であるいはどのように礼拝をささげるといのでしょうか。

それは「霊とまことに於いて」です。エルサレムやゲリジム山ではなく、「霊に於いて」、あるいは「まことに於いて」、「霊とまことに於いて」、神さまを礼拝するのです。「霊によって神さまを礼拝する」とは、「口先だけでなく、あるいは形式だけでなく、心から、あるいは全身全霊をもって神さまを礼拝する」という意味になるでしょう。「まことによって礼拝する」の「まこと」と訳される言葉 avlh,qeia は、通常「真理」と訳され、他には「真実、真相、事実、本当」なども訳されて、要するに嘘偽りのない正しさを意味します。

つまり、イエスさまがここで言われる「霊とまことによって父を礼拝する」とは、こういうことになります。まず第一に、自分勝手に考え出した自己満足の礼拝ではなく、正統な正しい聖書の教理に基づいた、いわば神さまに喜ばれる礼拝を神さまにささげる、ということになります。そして第二には、それをただ口先だけではなく、あるいは形式的に形だけ礼拝するのではなく、心から、あるいは全身全霊をもって、神さまに礼拝をささげる、ということです。これがイエスさまの言われる「霊とまことによる礼拝」です。

そして、「今がその時です。」とイエスさまは言われます。さらには「父はこのような人々を礼拝者として求めておられる」とも言われます。

23. しかし、真の礼拝者たちが霊とまことによって父を礼拝する時が来ます。

今がその時です。

父はこのような人々を礼拝者として求めておられるからです。

そして、こう結論なされるのでした。

24. 神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。」

神さまは霊だから、だから、私たちも霊とまことによって神さまを礼拝しなければならない、とイエスさまは言われます。神さまが霊であるということの意味は、神さまが本質的に物質的なお方ではない、ということです。つまり、神さまによって創造された、いわゆる「被造物」ではない、ということです。むしろ神さまは、万物を創造なさった創造主であられます。永遠の昔から生きておられる永遠不滅なるお方で、今も生きて働いて、万物を支配し、審判し、回復し、宇宙を完成

に至らしめる生ける神です。神さまはこの世の物質的な世界の一切を超越しておられます。全く完全に自由です。木や石の神々ならば、その前で手を合わせ、伏し拝めば、それで済むかもしれません。でも神は霊です。騙されるようなお方ではありません。見えないけれども、私たちを見ておられます。私たちの心を見ておられるのです。「人はうわべを見るが、神は心を見る」のです。それは一切のものを超越しておられるが故に可能です。誰も見ることのできない私たちの心を見ておられるのです。「神は霊です。」一切のものを超越し、一切のもののお内におられ、一切のものを貫くお方、それが「霊」なる神さまなのです。霊なる神さまは、生きておられ、生きて働いて、私たちに語りかけ、手を下されます。

そして、目に見えない霊なる神さまは、見えるこの世界をご自身の住まいとして創造なさいました。それから、人間のために幕屋を通して、次には神殿を通して、ご自身の臨在を現されました。幕屋も神殿も、見えない神さまの恵みとみこころを知るための、いわば視覚教材と言うべきものです。そしてさらには、律法を通して、預言者を通して、人々に語りかけ、極めつけは、人となって世に来られたイエスさまを通して、神さまはご自身を完全に人々に現されたのです。

つまり、イエスさまがここで言われる「真の礼拝者」とは、要するに「イエスさまを礼拝する者」ということにほかなりません。イエスさまを「霊とまことによって」礼拝するのです。「正しく」とは、イエスさまを礼拝するということです。そして、「心から」イエスさまを礼拝します。そして、そのような真の礼拝者を父なる神さまは求めておられるとイエスさまは言われます。そう考えると、エルサレム神殿であっても、イエスさまを礼拝しないならば、「霊とまことによって」神さまを礼拝しない人がいることになります。反対に、サマリヤであっても、正しくイエスさまを礼拝するならば、「霊とまことによって」神さまを礼拝することができることになります。それはたとえ自堕落な生活をしているサマリヤの女であっても、彼女が心からイエスさまを礼拝するならば、十分に真の礼拝者たり得るのです。

そしてイエスさまは、事実、そのサマリヤの女をお招きになりました。彼女も、事実として、真の礼拝に招かれていたのです。そして、霊とまことによって神さまを礼拝する「真の礼拝者」となったことでしょうか。つまり、「心から」イエスさまを礼拝する者となったことでしょうか。「心から」とはどういうことでしょうか？ どういう「心」でしょうか？ それは「喜んで」ということです。「救われた喜びと感謝をもって」ということです。イエスさまがサマリヤの女に言われた「決して渴くことのない永遠のいのちの喜び」です。

13. イエスは答えて言われた。

「この水を飲む者はだれでも、また渇きます。

14. しかし、わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して渇くことはありません。

わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。」

それは自分のような者を救ってくださったという喜びです。滅びるしかない自分のような者をイエスさまが救ってくださったという喜びです。この喜びはあらゆる困難に打ち勝って、とめどなく溢れ続けるのです。永遠のいのちの喜びです。

私たちもこの祝福へと招かれています。サマリヤの女が招かれた祝福へと、私たちも招かれています。「神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。」この言葉は、イエスさまがサマリヤの女に語られた言葉です。サマリヤの女にだって語られたということは、この私がたとえどんな者であれ、どんなに罪深くあったとしても、この私にも有効だということです。

幕屋、神殿、イエス・キリストと、今日、私たちはまさにイエス・キリストを通して神を知り、神を礼拝しています。このような罪深い者をお救いくださった喜びと感謝をもって、イエスさまを心からほめたたえて、神さまに礼拝を捧げる真の礼拝者になりたいと思います。毎週礼拝に来て、心から祈り備えて、神の栄光をあらわす、真実な礼拝を毎週神さまにささげる私たちであるよう祈ります。